

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	大船渡市			代表者名	浏上 清
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	企画政策部デジタル戦略課	連絡先電話番号	0192-27-3111
担当者役職	係長	担当者氏名	及川慎一郎	連絡先E-mail	
住所	022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	連絡先E-mail

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	大船渡市DXセミナー
概要	①市職員（幹部職員向け、中堅職員向け）のDX研修の開催 ②市内事業者及び市民向けDXセミナーの開催		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） EBPM（エビデンスに基づく政策立案）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	739	令和8年1月14日	講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和8年1月23日	フォローアップ(実地)	10時00分	12時00分	10
				活動時間（分）	110
2-2. 派遣場所	会場名	大船渡市役所		最寄駅	盛
	所在地	岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15		最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	庄司 昌彦
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	昨年10月に実施した幹部職員対象のDX研修に係るフォローアップとして、課長補佐・係長級職員を対象に実施。DX推進が必要とされる背景など基本的な導入から、AI活用の実演や様々な事例紹介を交えた講義であり、テーマの区切りには参加者同士の意見交換の場を設けたことで、自ら積極的に考える場として意識啓発の効果を高めるなど有効な研修を展開いただいた。参加職員からもDX推進の必要性や取り組むべき課題が明確になったという反応が多数であり、本研修が効果的であったと認められる。また、講師の説明の分かりやすさやAI活用事例なども参加者の高評価が多く見られた。
アドバイザーへの要望事項	引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	48人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	48		その他(学生など)

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	デジタル実装の取組やDX戦略の策定など、市がこれまで進めてきたDXの推進をさらに加速させるとともに、業務や体制のあり方などに踏み込んだ抜本的な見直しなど取り組むべき課題は多い。AIやデジタル技術の力を活用することにより、限られた職員数で複雑・多様化する地域課題解決に取り組んでいくための土壌づくりが必要である。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	デジタル田園都市国家構想の目的を理解し、市職員、市民や事業者など市に関わるすべての人がDX推進の必要性を理解し、主体的にDXの意識を、幹部職員はもとより、次世代を担う幹部職員に対してもDX研修を重ねることで変革の組織風土づくりを進め、行政経営における変化に対応することができる組織体制を確立する。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	・人口バランスの大きな変化や人口減少により職員数は減少することが確実な情勢で、非効率な仕事のやり方を変えない(アナログに執着するなど)、「人が頑張る」ことで対応する、という考えは限界があり、人でなくてもできる業務へのAI活用などは不可欠。 ・最新技術やツールの導入ではなく、業務の抜本的な改革がDXであり、「デジタル技術(を扱う力)はすべての人に必要」という前提で全員に恩恵のあるデジタル活用力の底上げが必要である、という内容の講演をいただいた。 ・自治体システム標準化やガバメントクラウドの概要についても講義いただき、関連業務に携わっていない職員も国や自治体の動向、現状を把握することができる機会となった。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	参加した職員の約9割が「DXを積極的に進める必要がある背景や、取り組むべき課題について大いに明確になった・やや明確になった」と回答しており、実務の中核を担う課長補佐級・係長級という中堅職員の意識醸成を図ることができた。 また、特に生成AI活用に関する反響も大きく、活用に向けた積極的な意見、要望が寄せられたことから、職員の改善意識が高まったことが確認できた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	第1回研修で幹部職員、本研修は中堅職員におけるDX推進の意識醸成を図るという目的は達せられたが、引き続き、さらに庁内全体、市全体(地域のDX)を対象として同様に啓発を進める必要がある。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	別途アンケート回答結果を添付します。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取り組む事項がある
	課長補佐級、係長級職員等の中堅職員、また、市民・事業者向けの研修を年度内に実施し、引き続き庁内及び地域におけるDX推進の機運醸成を図りたい。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	高齢化社会においても市民全員がデジタルの恩恵を受けられ、住み続けられるまちづくりを実現する。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

